

# CSR/サステナビリティへの 共感の輪を広げる 「SUSTAINABILITY GALA」

多くの従業員が「自分事」として捉えることの少なかった

CSR/サステナビリティの考え方に対し、共感の輪を広げる――。

日立製作所の情報通信事業を担うシステム&サービスビジネス(SSB)は5月、

従業員向けのイベント「SUSTAINABILITY GALA」を開催した。

3時間にわたり活気にあふれた会場の様子をお届けする。



## SDGsへの理解を深め、施策に共感してもらう

「CSR/サステナビリティは経営そのものに直結するとも言われるが、従業員には業務との関連性をなかなか理解してもらえない……。多くの企業が抱えるこの課題に対し、SSBも同様に、試行錯誤しながらさまざまなCSR施策を展開してきた。より多くの従業員がCSRの考え方を理解し、SSBのさまざまなCSRの取り組みを知ることによって共感の輪を広げたい！そんな思いから今年初めて開催したのが「SUSTAINABILITY GALA」だ。

まずレゴ®ブロック（以下、レゴ）を使ったワークショップで、参加者が業務とSDGsとのつながりを学べる場を提供。その上で、グループ会社を含む従業員から公募形式で参加者を募る2つの施策「プロボノ」「社会イノベーション事業体験ワークショップ」を紹介する2部構成とした。

介する2部構成とした。

SDGs：Sustainable Development Goals（2015年9月に国連の「持続可能な開発サミット」で採択された持続可能な開発目標）  
レゴは、LEGO Group. の商標または登録商標です。

## レゴを通じてSDGsを「自分事」化

「具体的なイメージが難しいSDGsを、レゴを通じて『自分事』化していただく。それがこのワークショップの狙いです」



そう語ったのは、ファンリテーターを務めたことも国連環境会議推進協会事務局長の井澤友郭氏だ。

井澤友郭氏は、年間200回近く企業研修や出前授業を行っている。

参加者は「未来・世界・大人をそれぞれ1つのレゴで表現する」課題に取り組み、レゴに込めた意図を3～4人のグループ内で共有、さまざまな質問を投げかけあった。たとえ同じレゴを選んでも、その理由はバラバラ。解釈に正解はないことを皆が実感した。

「自分に見えている景色は他人には見えない。1つの言葉に対しても色々な捉え方があります。SDGs達成に向けても、この多様性を認識することが重要なです」（井澤氏）

井澤氏は、SDGsの17の目標のどれか1つを解決すればよいのではなく、その1つひとつが相互に絡み合っていることを解説。さらに、13人に1人がLGBT（左利きの人と同じ割合）、男女平等ランキングで日本は世界149カ国中110位というデータを示し、「実は日本の中でも取り残されている人がいる。それをゼロにするための社内制度が整っていますか？」と疑問を投げかけた。

最後に参加者は「自分の業務において取り残されている人をレゴで表現する」課題に挑戦。業務と社会課題の関連性を意識しながらSDGsへの理解を深めた。



「このレゴの意味は?」「なぜこの色なの?」などの質問が飛び交った。

## 仕事のスキルを生かして、NPOを支援する

仕事の経験やスキルを生かし、NPOなどの公益団体の課題解決を支援する「プロボノ」。SSBは認定NPO法人サービスグラントと協働し、1団体に対し5～6人の従業員による3カ月間の支援を行っている。

この日はサービスグラント代表理事の嵯峨生馬氏がプロボノの概要説明を行ったほか、活動経験のある従業員を囲み、プロボノでの学びや苦労などをざっくばらんに語りあった。今年度は6月中旬から5団体を支援する。業務との両立に関する参加者からの質問に「業務は同僚がサポートしてくれたし、プロボノの活動に参加できないときはチームメンバーがフォローしてくれた」と経験者が回答。参加者は不安が解消され、ま

すまず関心を高めた様子だった。



「子育て中でも参加できるか?」「活動から学んだことは?」など質問が相次いだ。

## 社会課題に向き合い、ビジネスアイデアを考える

1チーム5人で3カ月間活動する「社会イノベーション事業体験ワークショップ」の対象は、次世代リーダー層。新興国の社会課題を起点に、社会性と事業性を両立させるビジネス創出の視点を養う。最終アウトプットは、SSB経営幹部へのビジネスアイデアのプレゼンだ。

会場では、協働団体であるNPO法人クロスフィールズの西川紗祐未氏による概要説明のほか、ワークショップの経験者が実体験を語った。「新しいビジネスモデルをゼロから考えられる貴重な機会だった」「一番の気づきは、協創の大切さ。組織の枠を越えた仲間と活動したことで新たな視点に気づけた」などの声から、参加者は具体的な活動イメージを描けたようだ。今年度の新たな活動は9月からスタートする。



経験者はワークショップの学びや反省点をざっくばらんに語った。

## 同時開催の「買って社会貢献! 1DAY SHOP」



障がい者福祉施設による特設販売会「買って社会貢献! 1DAY SHOP」を同時開催。2団体が手作りクッキーやパウンドケーキなどの焼き菓子を販売し、多くの従業員が買い物を楽しんだ。